

ある。

8. 経過中に BOOP 様病変を合併した高齢者 MDS の 1 例

(老年病学教室) 宮崎 香理、木村 明裕、菊川 昌幸
黄川田雅之、大野 大二、新 弘一
岩本 俊彦、高崎 優

【症例】 69 歳男性。

【主訴】 発熱。

【現病歴】 01 年 5 月に貧血ならびに血小板減少精査のため入院となり MDS よりの白血病化と診断された。同年 6 月より化

学療法施行し、PR となり以後地固め療法を継続していた。02 年 1 月上旬より 37°C 台の微熱を認めることより入院となり、胸部 X 線では両側下肺野を中心に、軽度の間質性陰影を認めた。胸部 CT では両側上肺野を中心に非区域性のスリガラス陰影を認めた。TBLB では肺胞壁の中等度の細胞性肥厚とリンパ球浸潤、また肺胞腔内へのポリープ上に突出した肉芽組織を認めた。肺胞腔内に硝子化した線維化巣を一部に認めた。以上より肺病変は BOOP (brochiolitis obliterans organizing pneumonia) 様病変と診断した。MDS において抗生剤抵抗性の肺病変は、BOOP も念頭に入れた検索が必要であると考えられた。